

特集

生きがい探しのススメ

〜いきがい大学伊奈学園を訪ねて〜



「団塊の世代」と呼ばれる方々が大量退職を迎える2007年。世界でも有数の長寿国である日本では、60歳はまだまだ元気な世代で、セカンドライフを十分に楽しめる世代であり、退職後の人生設計をいろいろと考えている方も多いと思います。

そのような方々に対して、財団法人いきいき埼玉では、学習の機会を提供し、社会の変化に対応できる能力の習得、社会参

加による生きがいを高めるとともに、卒業後は地域活動のリーダーとして活躍していただくことを目的に「いきがい大学」を開校しています。

伊奈町にも県民活動総合センター内に「いきがい大学伊奈学園」があり、多くの方々が充実した学園生活を送っています。

今回は、伊奈学園で学ぶみなさんの姿を通じ、高齢者の生きがい探しについて考えます。

『2年制4科からなる充実したカリキュラム』

県内10か所ある「いきがい大学」のうち、平成2年に開校した伊奈学園は、東松山と並んで2年制を採用しています（他は1年制）。内容は、地域創造科、福祉環境科、ふるさと伝承科、美術工芸科の4つの専門科目に分かれ、生徒はそれぞれの分野で充実した日々を送っています。講義の内容も多岐にわたり、講師もその道のエキスパートを配し、充実を図っています。

また、クラブ活動や学生自治会活動も充実しており、現在では17期生を数えるまでになっています。

『文化祭にて』

取材日当日（10月11・12日）は、日ごとの課題学習の成果を発表する文化祭でした。

会場となった県民活動総合センター小ホールは、いきがい大学の卒業生、現役生を



じめとする方々が数多く来場し、会場は活気にあふれました。手作りの紙芝居を披露するグループやコーラス、パソコンを利用した映像の披露など各科ごとの多種多様な催しもので、舞台と観客との一体感があり、みなさんそれぞれが心身ともに充実しているという印象を受けました。

学園の一日の主なスケジュール(例)

時間	月日	9月21日	9月28日
	曜日	木	木
9時50分		ホームルーム	
10時20分	共通科目	法律相談からみたトラブル解消法 講師 弁護士 弁護士	暮らしとe-ネット 講師 マルチメディア振興センター
11時50分			
13時00分	福祉環境科	異常気象と洪水の危険(荒川) 講師 荒川下流工事事務所	植物から見た自然環境 講師 朝霞市教育委員会
	ふるさと伝承科	鎌倉街道を辿る 講師 15期課題研究グループ	荒川の舟運 講師 県立自然の博物館
	美術工芸科	水彩画(1)(2) 講師 美術学校講師	
	地域創造科	コミュニケーションの手法(2)(3) 講師 NPO法人	
14時45分			
16時50分	クラブ活動	学生自治会活動	

高齢者の知的財産を活用
してもらいたいですね



石川 政夫さん(大針)
いきがい大学伊奈学園第16期生
美術工芸科在籍

伊奈町に住んで18年になるという石川さん。いきがい大学伊奈学園では美術工芸科に在籍。この大学で学ぶ理由をこう語ります。

「もともと建築畑を歩んできて、70歳を機会に自分自身の人生を楽しもうじゃないかというところで、友人の意見なども参考に選びました。陶芸や絵画にも興味があり、もっとそのレベルを上げてみたい、こんなきっかけでしたね。」

入学する前と実際に学習が始まってからのギャップはありましたか？

「ええ、それはかなり(笑)。入学してから、職員の方に『趣味を生かすような気持ちじゃ困る』と言われたんですよ。この伊奈学園で学ぶ2年間を地域に役立つ下地作りとしてほしいとね。そうなるよ、気持ちも引き締まるし、授業

も真剣ですよ。16期生の授業は水曜日の週1回ですが、午前中はさまざまな分野の講義。そして午後になるとクラブ活動や学生自治会活動があつて、



とても忙しく1日が過ぎていきますね。」

「割合とすれば数%とわずかですね。でも逆に言えば伊奈町以外の方が多いいということ。伊奈町をPRする絶好の機会とも言えますよね。伊奈町をよく知らない埼玉県民の方も多いいです。幸いなことに伊奈学園では1年目に自分の好きな分野で課題を決めて研究発表を行う自主研究、2年目はグループで課題を選び発表する課題学習があります。私は、せっかくの機会なので伊奈町を知ってもらうために歴史を選びました。一人ひとりが広報マンとしての役割を担うことができると考えて

います。」

卒業してから取り組みたいことはありますか？

「私も71歳になりますが、高齢者の知的財産をうまく利用してもらいたいと思います。自分は建築畑を歩んできましたので、地域の方や行政、そしてこの大学で知り合った仲間と連携をしようという思いが、室などを開いてみたいですね。せっかくの知恵・知識を生かさない手はないですし、世代を超えた会話というものが何より大切なものだと考えていますから。」

学んだ知識を地域に還元
してもらえたら



遠藤 昇さん
いきがい大学伊奈学園所長

学園生に接しての感想を聞かせてください。

まず、みなさんとてもお若いということですね。伊奈学園の特徴は、2年間のカリキュラムを過ごしていくことで、仲間との時間がより濃密になっていくことだと思いま

す。それにここで学んだことを地域に還元したいという意欲を感じますね。

いきがい大学のあり方についてのお考えをお聞かせください。

この学園で学んだことを自己満足で終わらせるだけでなく、その知識、経験を地域に還元してもらいたいと思つています。幸い伊奈、上尾、蓮田ゾーンはそういった経験の受け皿(ボランティア活動など)がしっかりしています。また、同校のOBが連携し、活動の幅を広げているのも大きな特徴だと思います。今後は高齢者が行政のシニアパートナーになり、支えられる側から支える側になることを期待していますね。

入学を希望される方に一言を

60歳から受け入れを行つているということで、学ぶ方々はそれぞれの経験を積んでこられていきます。しかし、いきがい大学では「有」から「無」といったように、肩書きや経歴をリセットして、新たな夢や可能性を、新たな仲間と探してもらいたいと思つています。

2月から募集が始まりますので、積極的に応募してもら

いたいと考えています。

「今後の課題」

「地域との協働・連携・知的財産の活用」

いきがい大学を卒業後、それぞれお住まいの地域で、ボランティア活動や社会福祉活動、町高齢者事業団などを通じて、数多くのグループ・個人が活躍されているようです。冒頭に述べたように、団塊の世代の方々が大量退職を迎え、高齢者人口が全人口の20%を超えた日本において、シルバーエイジの方々が培ってきた経験や知識を次の世代に引き継がない手はありませんし、第2の人生の始まりであるとき、まだまだ老け込む時期でもありません。

自分自身を高めるために学ぶこと、そして学んだことや経験を地域社会で生かすことが第2の人生を有意義に過ごすことにつながると思います。ご自身のセカンドライフや生きがいについて、あらためて考えてみませんか。

**お問い合わせは
いきがい大学伊奈学園
所在地**

大字小針内宿1600
県民活動総合センター内
048 728 2299